

令和4年（2022年）4月5日（火）

令和4年度1学期始業式 あいさつ

校長 石川 裕之

おはようございます。3月の離任式ではお世話になった先生方とのお別れがありました。そして、先ほど新任式で、および本日はご都合でお見えにならない方を含め、19名の先生方を迎え、令和4年度がスタートしました。あらためまして、今年度より学校長を務めることとなりました石川裕之です。よろしくお願いします。昭和56年3月に本校を卒業した33回生です。平成18年から地歴公民の教員としてお世話になりましたので、この学校でお世話になるのは3回目ということになります。令和になってからは、初めてこの校舎に足を踏み入れました。新参者ですのでどうぞよろしくお願いいたします。

さて、みなさんの、深志高校でのこれまでの2年間あるいは1年間はいかがだったでしょうか。充実していましたか。この2年間は、学校が休みになったり、様々な行事が形態を変えたり中止になるなど、皆さんにとっては思うようにならず、残念だったことも多かったのではないかと思います。それでもそうしたピンチにあたり、皆さんはどのように乗り越えるかを考え、こんな時だからこそできる方法を見つけてきたのだと聞いたり見たりしています。こうした経験は、これからコロナが収まったとしても、将来どうなるかの予測が難しい社会において、生きるための力として役立つに違いありません。今年もまた、コロナ禍は新たな局面を迎えるでしょう。昨年度のやり方がそのまま通用するとは限りません。私たち大人も含めて、何か仕事や行事を行う時、前例踏襲をすると楽なので、つつい前年通りにとやりがちです。しかし、そこからは新しい技術や視点が見出しにくいのも事実です。コロナ禍のこの時代、前例が通用しないことばかりになってしまいましたが、この機会にぜひとも多面的なものの考え方、新しいやり方を受け入れる柔軟い心を自分の中に育成していただきたいと思います。

さて、コロナ禍で経済が停滞していたり、ウクライナでは人命と人権、平和が脅かされるなど重たい・切ない話題を耳にすることの多い昨今です。その中でちょっと希望を感じることもできる、皆さんの先輩のお話をします。共感できるかどうかは人によって違うと思いますが、私はぜひ皆さんにお伝えしたいと思いましたが、ここでお話をさせてください。

前任校の上田染谷丘高校で、10月に行われた1年生の探究学習の時間に、当時JETROに勤めていた27歳の青年に来校していただいて、「こんな時だから国際社会

に目を向けよう」と題してお話をしていただきました。JETRO ってご存じですか？ JETRO というのは、日本貿易振興機構という行政法人のことで、主に日本の中小企業が海外の企業との貿易を進めるうえでのコンサルティングや支援を行うという役割を担う、経済産業省直属の組織です。彼は3年間務めたその JETRO を辞め、オランダの大学院に進学をすることになっていて、その直前に金沢大学で講演を依頼され、金沢に向かう途中、探究系の先生のおついで、上田染谷丘高校に寄ってお話をして下さいました。今回の講師が長野県出身であるという情報は系の先生から教えていただいていたのですが、来校した彼を校長室にお通しした瞬間、私は自分が深志高校に勤めていた際に、在学していた生徒で、2年間地理を教えた生徒であることに気づきました。向こうもすぐに気づいてくれて、とても嬉しく思いました。高校時代の彼はサッカー小僧で、ディフェンスの名手でした。ところが大ケガのためサッカー部を辞めて落ち込んでいた彼を、私が音楽部に誘ったところ、心機一転ゼロからバイオリンを始め、1年で県選抜オーケストラの舞台に立つというチャレンジャーでもありました。東京の私立大学に進学したところまでは知っていましたが、その後のことを聞くと、大学では国際経済に関して学んだそうですが、大学2年の時にオランダへ留学し、そのままスコットランドの大学へ転学、大学卒業後はスロバキアとベトナムの政府系機関で企業の貿易に関するコンサルタントを行った後、帰国して、日本貿易振興機構(JETRO)に就職したという歩みだったそうです。そこで、私は一つの質問をしました。現在の彼の仕事は、日本の中小企業が世界の企業と渡り合うための支援を行ったり、相手方の途上国の企業の育成を支援しているらしいのですが、なぜ、それを辞めてオランダの大学院に進学するのか不思議だったのです。しかも、このコロナ禍に、さらに、日本の企業に勤めるベトナム人の彼女を置いてです！

彼は私の質問に対して、こう言いました。自分が大学で学んできた中で、自由で公正な貿易を世界に保障するシステムをつくるところに自分も関わりたいと思うようになり、そのためにはWTOに所属しなければならないし、27歳の今がその決断の時なのだと。WTOといえば、世界164か国が加盟する、本部事務局がジュネーブにおかれる世界貿易機関であることは皆さんも知っていますよね。応募資格をググってみると、年齢制限は30歳で、国際修士の資格を持つ必要があるようです。可能性は未知ですが、私は自分の目標に向かって、コロナも年齢も顧みず突き進んでいく、志の深さ、骨太な精神を応援したいと思いました。個人的には、彼女と遠距離になるのはどうかな、とも思いましたが、彼女にもまた、日本の企業で活躍する夢があるのだらうと、その件については突っ込みませんでした。

そして、彼の講話が行われた去年の10月ころには全く考えていませんでしたが、自由で公正な貿易を遂行するためには、何よりも平和が必要だなど、今は感じています。

明日は入学式です。きっと初々しい1年生が入ってくることでしょう。新3年生は最上級生として、ぜひ1年生を深志生へと導くとともに、最終学年として充実した高校生活の中で、進路に向けた取り組みを本格化させてください。そして新2年生はまた、1年生と3年生を支えながら、自分も輝くことのできるような取り組みに打ち込むことを期待しています。

本校は23学級920人を超える生徒が在籍することとなります。23学級以上ある学校は、78ある県立高校の中でも3校しかありません。生徒の数が多いということは部活動に、生徒自治会の活動や文化祭に、活動の幅も広がります。楽しみですね。一方で様々な地域で育ってきた多様な仲間が集まっていることも意味します。得意なことも、趣味も、考え方も、夢も違う、多様な仲間がそれぞれの光を放っている。自分よりもすごい人がいっぱいいる、非常に刺激的な空間であることは皆さんもご承知の通りです。自分も含め、友人一人一人の違いをしっかりと認識し、多様な考え方を受け入れることのできる、柔らかい、しなやかな心を育てていていただきたいと思います。そしてテストの点数や成績だけで自分が他人より優れているとか劣っているなどと比較による単純な発想をせず、自分の良いところ、頑張れることを大いに伸ばす努力をしてほしいと願っています。

すてきな1学期に、そして充実した1年にしましょう。皆さんの幅広い才能が地道な努力により開花し、多方面で活かされていくことを期待しています。終わります。